

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1) 術中脊髄機能評価法の開発</p> <p>脊髄機能モニタリングは脊椎脊髄手術や大動脈瘤手術に際して起こりうる重大な合併症である脊髄障害を予防する手段として欠かすことができないものとなっている。これまでいくつかの誘発電位を指標としたモニタリング法が開発されているが、脊髄のすべての機能を評価しうる完璧なモニタリング方法は開発されていない。より非侵襲的で信頼性の高い方法を開発する。</p>	加藤教授	1~2
<p>(2) 各種骨粗鬆症の骨組織形態計測による分析</p> <p>1) 実験：老化モデル、二次性骨粗鬆症モデル動物の採取脛骨、腸骨を骨組織形態計測自動化システムにより解析し、各種骨代謝マーカーを始めとする血液所見と共に検討する。</p> <p>2) 臨床：さまざまな原因により起こる骨粗鬆症（一次性、二次性）患者の、画像解析（骨塩定量を含む）、血液所見、臨床所見と生検した腸骨の自動化組織形態計測解析からみた骨粗鬆症の本質を探る。</p>	和田（啓）講師	1~2
<p>(3) 代謝性骨疾患への骨組織形態計測自動化システムの応用</p> <p>1) 実験：各種代謝性骨疾患の実験モデルを作成し、採取脛骨、腸骨を加藤が開発した骨組織形態計測自動化システムにより解析する。</p> <p>2) 臨床：代謝性骨疾患患者の骨生検腸骨を加藤が開発した骨組織形態計測自動化システムにより解析し、画像診断・各種骨代謝マーカーと比較、検討、分類する。</p>	和田（啓）講師	1~2
<p>(4) 腎性骨異栄養症の骨組織形態計測による分析</p> <p>1) 実験：腎不全モデル動物を作成し、採取した脛骨、腸骨骨組織形態計測により解析する。</p> <p>2) 臨床：腎性骨異栄養症者の骨生検腸骨を骨組織形態計測自動化システムにより解析し、画像診断・各種骨代謝マーカーと比較、検討、分類する。</p>	加藤教授	1~2
<p>(5) 頸椎由来の疼痛と構造と機能の関係</p> <p>1) 実験：ラットの頸椎椎間板や椎間関節に神経トレーサーをいれ、頸椎の後根神経への取り込みを調べる。交感神経切除モデルなどを作製し検討する。</p> <p>2) 臨床：頸椎由来の疼痛のある患者に対し、神経根ブロック、星状神経節ブロックなどを行い、治療を行いながらブロックの効果や持続性を検討することにより、痛みの性質を調べる。</p>	加藤教授 村田講師	1~2
<p>(6) 胸椎・腰椎の構造と関連痛</p> <p>1) 実験：胸椎や腰椎で椎間板ヘルニアなどの疾患モデルラットを作製し、交感神経幹を介した関連痛について、疼痛関連行動を調べ検討する。</p> <p>2) 臨床：胸椎疾患、腰椎疾患患者の痛みの部位と、神経根ブロック、交感神経節ブロック、手術療法による効果を検討し、痛みの伝達経路を臨床例で説明する。</p>	加藤教授 村田講師	1~2